

滋賀の高校生が選んだ！(令和2年度優秀作品)

しがはいすくーる おすすめ本50選

(著者名の50音順に並んでいます) (氏名の有無は本人の希望によります・学年は令和2年度当時のものです)

発行：令和3年6月 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課



『LGBTのひろば』

大塚 隆史・城戸 健太郎 編
日本評論社

この本はLGBT当事者の方の体験談を混じえて書かれた本です。元々、LGBTについて考えたことがなかった私ですが、手にとって読んでみると世界が広がったという感じがしました。消えない偏見や差別の中、当事者の方がどんな思いで生きているのかというのを読んで、自分にも何かできることがあるのではないかと意識できる良い機会になる本でした。

(大津高校3年 楠原 夢葉さん)



『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』

沖田 円 著
スターツ出版文庫

この本は、ハナという記憶が1日しかもたない男の子とセイという両親の不仲について悩む女の子の2人がお互いを支え合うお話です。私はこの本を10回以上読むほどお気に入りです。その理由は自分の立場がすごく似ていて、物語を読み進めていくうちに共感することや、ハナの言葉に助けられ、頑張ろうと思えるからです。家庭のことで悩んだり、辛いことがあった時に読むとすごく助けられる1冊です。ぜひ読んでみてください。

(国際情報高校1年 赤松 優奈さん)



『どこよりも遠い場所にいる君へ』

阿部 暁子 著
集英社
オレンジ文庫

「神隠しの入り江」に倒れていた少女、七緒が、心に傷を抱えた主人公、和希を光りへと導く。空想の恋愛物語とされているが、それ以上に「学ぶ」ことの多い作品である。「人間」の持つ善悪、「普通」とは一体何か、「罪」が与える悪意。読みながら、自分の中にいくつもの新しい観点が生まれていく。日常生活で見えなかった考えが、具体化されていく。きっと読み終える頃には、世界が違って見えるだろう。

(大津高校3年 松本 萌花さん)



『なぜ僕らは働くのか』

池上 彰 監修
佳奈 漫画
モドロカ 画
学研プラス

私たちはどうして働くのか、何のために勉強するのか。こうした疑問や将来への不安をすんなり解消してくれる本です。時代に伴う仕事の変化や生涯にかかるお金のこと、雇用のしくみなど、この本を読めば、今まで複雑だと思っていた社会のしくみも実は単純だったと気付くでしょう。将来のことについて不安や悩みがある人に特におすすめの一冊です。自分の人生と向き合う上で忘れられない一冊となること間違いなし！

(守山高校2年 郷田 真佑さん)



『ちょっと今から仕事やめてくる』

北川 恵海 著
KADOKAWA/
メディアワークス文庫

この本は、ブラック企業で働く男性の話です。この男性は線路に飛び込もうとしたところを同級生と名乗る男に助けられて、その出会いをきっかけに生活も変化していきます。自分自身のためにも、かけがえのない人や家族のためにも、「ちょっと今から仕事やめてくる」くらいのスタンスでちょうどいい。読んでいて、痛快なシーンや楽しくてそしてちょっと切ないところもあつたりする小説なので、働く全ての人におすすめです。

(草津高校3年 木下 巧流さん)



『アリス殺し』

小林 泰三 著
丹地 陽子 装画
藤田 知子 装幀
東京創元社
(創元推理文庫)

不思議の国の住人たちが次々と殺されていく悪夢ばかりを見る主人公。それとリンクするかのよう、現実世界でも彼女の仲間が突然死ぬ怪死事件が相継いで起こる。この二つの世界の関係性とは…？アリス「殺し」と聞くと少し物騒なイメージをもつかもしれませんが、アリスの話を知らなくても楽しめるし、過激な表現も少なめなので読みやすいと思います。どれだけ注意して読んでも騙されること間違いなしです！

(守山高校1年 木村 志穂さん)



『新訳 星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著
倉橋 由美子 訳
宝島社文庫
※現在入手困難な本です。お近くの図書館等で探してください。

この本は、主人公が他の星からやって来た「星の王子さま」と出遭うお話です。大人とは何か、人間とは何かを主人公と「星の王子さま」との会話から考えさせられます。子どもの頃体験した初めての感情を忘れていませんか。「大人って不思議」と思った過去が蘇ります。今、子どもの方にも大人の方にもぜひ一度は読んでみてほしい作品です。この物語を読み、共感を覚えた方はすでに「大人」に近づいた存在なのかもしれません。

(草津高校3年 大龍 夏鈴さん)



『スマホを落としたけなのに』

志駕 晃 著
宝島社文庫

麻美の彼氏である富田がスマホを落とし、それが凶悪なクラッカーに拾われることで始まる物語。そのクラッカーがネット上の情報を駆使して、そのスマホから麻美の正体を暴いていく過程はリアリティに富んでいる。さらにこの物語の最後には、読者の想像を超える衝撃が待ち受けている。この物語は、誰もがスマホを持っているこの時代を生きる私たちにとって考えさせられるものであります。是非読んでみてください。

(守山高校1年 秋永 光翼さん)



『君の臍臓をたべたい』

住野 よる 著
双葉社

『君の臍臓をたべたい』というインパクトのあるタイトルに興味を持ったから読みました。私が印象に残った所は、桜良が自分の余命を知っているのにも関わらず、毎日笑顔で登校している所です。私だったら怖くて笑っていることができないので桜良の明るさや強さに感動しました。私はこの本から、毎日を全力で生きること学びました。自分の人生もいつ尽きるかわからないのでやりたい事はしっかりやろうと思いました。

(守山高校1年 久米 彩稀さん)



『か「」く「」し「」ご「」と「」』

住野 よる 著
新潮社

住野よるさんは、『君の臍臓をたべたい』で有名ですね。私は、この本もそれに劣らずとても面白いと思いました。この本は、男女五人それぞれが主人公です。一人一人少しだけ何かしら人の心が分かる特別な力を持っていて、その力があるからこそ、もっと知りたくなってしまふ。もどかしとところが青春らしいです。読み返すと、その時のその人の行動の意味などが分かることが多くあり、何回でも読み返したくなる、そんな作品です。

(国際情報高校1年 尾畑 凜さん)



『友人キャラは大変ですか？』

伊達 康 著
紅緒 イラスト
小学館
(ガガガ文庫)

主人公。それは、物語の主役的存在。超常の力を宿し、悪と戦う。読者の憧れの的だ。この本で語られるのは、そんな主人公…ではなく、その「友人」のお話である。彼の名前は小林一郎。何一つ特徴のないどこにでもいる高校生だ。そんな彼の唯一の特技であり生きがい、それは「助演」であった。数々の友人キャラあるある、数多のアクシデント、そして予想外のどんでん返しの中、一郎は無事「主人公の友人キャラ」を全うできるのか？

(長浜北星高校2年 矢野 秀典さん)



『優しい死神の飼ひ方』

知念 実希人 著
光文社文庫

この本は、死神がゴールデンレトリバーの体を借りて、地縛霊になりそうな魂を救うために奮闘するお話です。私はまず、このゴールデンレトリバーが可愛くてハマってしまいました。ホスピスという重いところを舞台にしているはずなのに、心が暖まるようで、ミステリーあり、ハラハラドキドキあり、笑いも涙もあるような、感動が詰まった物語になっているので、ぜひこの本を読んで、死生観について考えてみてほしいと思います。

(彦根翔西館高校1年 西山 杏子さん)



『2分間ミステリー』

ドナルド・J・ソボル 著
武藤 崇恵 訳
早川書房
(ハヤカワ・ミステリ文庫)

『2分間ミステリー』は、11個の謎が詰まった推理小説です。2分間で読めちゃうので少しの時間で頭の体操ができます。簡単な謎もあれば難しい謎もあるのでとても楽しいです。答えを知った後に本文を読みなおすと見逃していたヒントに気づいておもしろいです。この本のもう1つおもしろいところは、答えが天地逆に刷ってあるところ。本を逆さにしないと読めないのが謎に没頭することができます。

(長浜北星高校1年 下田 夢見さん)



『店長がバカすぎて』

早見 和真 著
角川春樹事務所

この本は無神経に私を苛立たせる店長に日タイライラが止まらない書店員谷原京子が「マジ辞めてやる!」と退職届を靴に忍ばせながらも根気強く働き続ける痛快コメディ作品だ。店長や同僚に対しての溢れ出る怒りや鋭いツッコミなど主人公の胸の内がストレートに書かれていて谷原京子の内面を覗き見しているかのようで楽しい。きっと作品中で谷原京子がよく飲んでいた喫茶店「イザベル」の黒豆ココアが飲みたくて仕方なくなる。

(守山高校1年 西村 百々花さん)



『マスカレード・ホテル』

東野 圭吾 著
集英社文庫

あなたには、「合わない人」はいませんか。人を「疑う」ことが仕事の警察官と、人を「信じる」ことが仕事のホテルマンという正反対の2人がパディとなり、連続殺人事件に挑む物語で、2人は衝突しながらも、お互いに理解し、成長していきます。自分の周りには「合わない人」は自分と違う視点を持っているはず。異なる視点が合致したとき、今までにない世界が現れます。「正反対」が噛み合い、つながる過程がわくわくします。

(守山高校1年 小椋 寛太さん)



『フォルトウナの瞳』

百田 尚樹 著
新潮文庫

この本の主人公、木山慎一郎は幼いころに家族を火事で失いずっと一人で過ごしていた。そんな日々突然「人の死ぬ前」が見えてしまう能力が身についた。そこで彼は、死がせまっている人を救いたいと思い、自分の命まで危険にさらしてしまう。この題名の「フォルトウナ」とは運命の女神という意味です。もし、あなたがこの力を持ったらあなたはどうしますか。人の死を助けますか。とても考えさせられる作品です。

(能登川高校 2年)



『15歳のテロリスト』

松村 涼哉 著
KADOKAWA/
メディアワークス文庫

「ボクはテロリストだ。」15歳の少年、渡辺篤人は何故テロリストにならなければならなかったのか。少年犯罪を題材としたこの作品では、日本の少年法のあり方について考えさせられました。テロの裏にあった衝撃の真実に読む手が止まりません。最後、渡辺篤人が自分の中の葛藤と闘う姿にあなたもきっと涙するでしょう。被害者、加害者それぞれの苦悩がリアルに描かれていて、何が正解なのかと考えさせられる作品でもありました。

(守山高校1年 西川 えみりさん)



『三角の距離は限りないゼロ』

岬 鷲宮 著
KADOKAWA/
電撃文庫

これは二重人格の転校生とその子に惹かれる男子生徒の一風変わった三角関係の物語です。とても読みやすく自分の中に入ってきやすい文体で、どんどん読み進められました。この作品では様々な恋心と共に、自分の個性を隠してしまうことや自分を演じてしまうことなど、思春期特有の悩みや辛さ、葛藤についても書かれていて、共感すると同時に今の自分の状況や性格についても考えるきっかけになると思います。是非読んでみてください。

(守山高校1年 長谷川 朝洋さん)



『向日葵の咲かない夏』

道尾 秀介 著
新潮文庫

夏休みを迎える終業式の日、友人S君の家でS君が首を吊って死んでいるのを目撃してしまう主人公のミチオ。しかし、S君は次の日忽然と姿を消してしまう。この小説は死んだ友人の死体の在処を探し、「誰に何のために殺されたのか」事件を追うミステリーホラーです。思わず背筋がゾッとするシーンも多く、向日葵の咲く暑い夏に読むことを強くオススメします。

(長浜北星高校2年 川森 咲花さん)



『豆の上で眠る』

湊 かなえ 著
新潮社

この話は、ある家族の姉妹の姉が誘拐されることから始まるミステリーなのですが、姉が無事に戻ってきた後から、ミステリー展開となる、少し変わったストーリー展開になっています。姉を探そうと出てくる母や友達との性格であったり、まわりの反応がとてもリアルに表現されており、人間性というものを感ぜさせられました。姉への違和感の正体がわかり、話のラストを迎えたのに、残る気持ち悪さや心のざわつきをぜひ体験して下さい。

(国際情報高校2年 中西 真唯さん)



『リバーズ』

湊 かなえ 著
講談社文庫

主人公の深瀬和久は穏やかな生活を送っていましたが、ある日深瀬の彼女のもとに、「深瀬和久は人殺しだ」と書かれた告発文が届き話がはじまります。この話は深瀬が過去に友人であった、広沢由樹の死についての物語です。この本の題名は『リバーズ』ですが、題名の通り、最後の一行を読んでその結末に驚くことは間違いありません。この衝撃を味わいたい方は是非『リバーズ』を読んでいただきたいです。

(守山高校1年 加藤 奏さん)



『ジョーカーゲーム』

柳 広司 著
KADOKAWA/
角川文庫

結城中佐を中心とする陸軍のスパイ組織「D機関」の話で、そこに属するスパイは誰も彼も優秀な一般人である。この本は、その中でも数人だけを取り上げており、その誰もが一挙一動すべてが何かの伏線であり、最後の最後にすべてが回収され事件が解決される様が感動する。特に、結城中佐の言動には注意して読んでほしい。みなさんも、点と点がつながる感動を味わってほしい。この本はもう一度読み返すとさらに楽しめる本でもある。

(守山高校2年 谷川 隼さん)



『なんくるない』

よしもと ばなな 著
新潮文庫

もっと楽に生きようと、この本を読んで心からそう思いました。私は前に、修学旅行で沖縄に行ったことがあります。そのときに思ったことは、沖縄は時間の流れが全く違うように感じました。この小説は沖縄が舞台になっています。読んでいくの間に自分自身が沖縄に行っているかのような感覚になり、いつの間にか緊張がほぐれていってしまいます。物語に引き込まれていきます。

(長浜北星高校2年 西岡 潤之介さん)

ポスターは2種類あります。
もう1種類は「におねっと」の子ども読書活動支援センターに掲載しています。
ぜひご覧ください。

HPはこちら